


- ①「基礎的・基本的な知識・技能を確実に定着させる指導の充実」
- ②「子どもの思考力・表現力を育む授業づくり」
- ③「家庭との連携による家庭学習習慣の確立」

学力向上推進員	委員	校長	豊崎 好美
	教諭	教頭 教諭・教務主任	張間 尚久 横山 利恵
江川 裕子		教諭・研修主任 教諭・人権教育主事 助教諭・特別支援コーディネーター	島田 正志 久米 知世 松村 洋子

校長

豊崎 好美 

(1)基礎的・基本的な知識・技能の習得

児童生徒の状況	具体的目標(目指す子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よさ 昨年 の全国学力調査や標準学力検査の結果によると、国語の言語に関する問題、算数の数と計算問題において全国平均を上回る学年が多かった。	漢字や計算などの基礎的・基本的な知識・技能を確実に身に付けることができる。	評価テストで国語の言語に関する知識・理解と算数の技能の観点で正答率を、低学年85%以上、中・高学年80%以上にする。			
課題 どの学年も個別に見ると漢字や計算など、基礎的・基本的な知識・技能が十分身につけていない児童がいる。また、自分の考えを分かりやすく言葉や文章で表現する力に課題が見られる。	具体的方策(教員の取組) ①学習のめあてをはっきりとつかませ、授業の最後には1時間のまとめを行う。 ②朝の国語・算数タイムに全学年でドリル学習に取り組み、基礎・基本を身につけさせる。 ③授業に音読をできるだけ取り入れるとともに、家庭でも音読の練習をする習慣をつける。	取組指標 ①めあてとまとめを板書し、児童のノートに書かせたり、一斉に唱えさせたりして確認させる。 ②毎週火曜日を算数タイムの日、毎週金曜日を国語タイムの日に設定し、漢字・計算の指導を充実させる。 ③毎日の音読練習の実施状況を確認する。		評価	次年度における改善事項

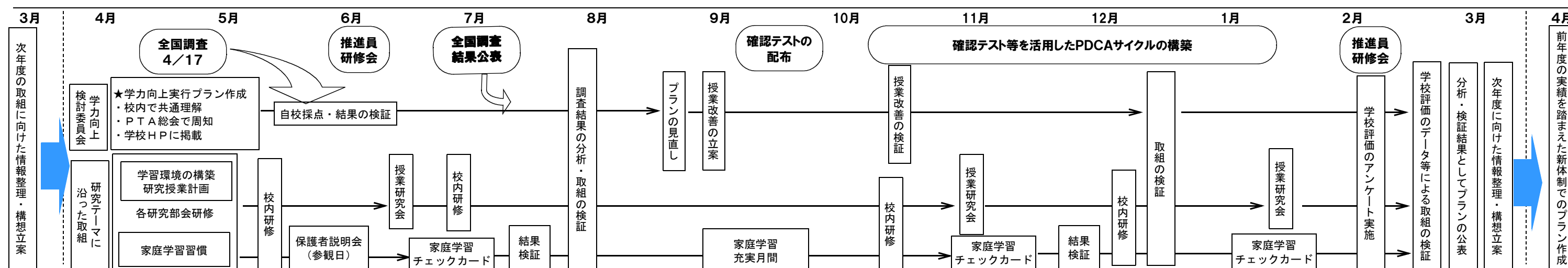
(2)知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況	具体的目標(目指す子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よさ 全国学力調査や標準学力検査の結果によると、思考力・読解力の問題で全国平均を上回る学年が多かった。また、算数の時間には、自分の考えを進んで発言する児童が増えた。	①目的に応じて、根拠や理由を挙げながら自分の考えや意見を書いたり話したりすることができる。 ②筋道を立てて考え、難しい問題にも根気強く取り組むことができる。	評価テストの思考力・読解力の項目で、低学年で正答率を80%以上、中・高学年で、75%以上にする。			
課題 全体的に国語の記述式問題の正答率は低く、算数では、問題文をイメージしたり、図式化したりする力に課題が見られる児童が比較的多い。	具体的方策(教員の取組) ①授業の中に、話し合いや討論などの場を設定し、自分の意見を臆せず言える雰囲気をつくる。 ②新聞や図書などの活字に親しませ、読書活動の充実を図る。 ③意見や感想などを書く活動を充実させる。 ④児童が自力で問題を読み取り解決する時間を確保する。	取組指標 ①ペア、グループ、全体などの学習形態を工夫し、意見を言う場を意図的に設定する。 ②1日平均10分以上読書する子どもの割合を80%以上にする。 ③授業の振り返りを文章で書かせたりテーマ日記などに取り組みせたりする。 ④各時間の主問題を自力解決する時間をとったり、週1回のチャレンジタイムで応用問題に取り組みせたりする。		評価	次年度における改善事項

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況	具体的目標(目指す子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よさ 宿題などの与えられた課題に対して、真面目に取り組む児童が多い。	①課題や自主学習に意欲的に取り組み、学ぶ楽しさや喜びを感じることができる。 ②家庭学習のてびきを参考にして、家庭での学習や読書の習慣を身に付ける。	「学年×10分以上家庭学習をする」の達成率を80%以上にする。(月～金の平均)			
課題 質問紙の結果などから自尊心の低い児童が多いことが分かった。また、「学年×10分以上」の家庭学習も、学年が進むにつれて、できていない割合が増えている。	具体的方策(教員の取組) ①学ぶ楽しさや達成感、自信が得られる授業を工夫する。 ②月始めの1週間、家庭学習チェックカードで家庭学習の様子を把握し、家庭と連携して子どもたちの学習意欲を高める指導をする。 ③自主学習の仕方や、自主学習ノートの書き方などを例示する。	取組指標 ①どの子も1日1回は発言する機会を与え、ともに進んで考えを言えたことを賞賛する。 ②家庭学習チェックカードを活用して毎日実施状況を確認し、意欲的な取り組みを賞賛する。 ③自主学習をポイント制にしたり、優れた自主学習ノートを通信で掲載したりする。		評価	次年度における改善事項

平成30年度 学力向上ロードマップ



〇〇学校 「学力向上実行プラン」

研究テーマ

- ①「主体的に学習する力を伸ばす板書・ノート指導の充実」
- ②「学校と家庭との役割分担による家庭学習習慣の確立」

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員	委員
---------	----

校長



(1)基礎的・基本的な知識・技能の習得

児童生徒の状況	具体的目標(目指す子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よさ 国語科の「言語事項」、算数科の「知識・理解」の領域については一定の成果が見られる。	①基礎的・基本的な知識・技能を確実に身に付けることができる。 ②語彙数が増え、正しい言葉で文章を読んだり書いたりできる。	全国調査・ステップアップテストで平均正答率が県平均以上	・確認テストの結果をより丁寧に児童や家庭に返す。	①ノート点検のチェックシートを用い、指導のポイントを絞ることで全員の点検を継続できた。 ②毎回の活動は計画通りだったが、テスト後の弱点の補強の時間がとれない時期があった。	国語、算数とも、ほぼ全ての設問で県平均を上回ったが、書く力に課題が残っている。
課題 学力に二極化傾向が見られる。学習に対する関心・意欲が乏しい。語彙数が少なく問題を読み取る力や文章を書く力が弱い。	具体的方策(教員の取組) ①板書・ノート指導を充実させ言語環境を整える。 ②漢字の読み書き・算数のミニテストや計算カード、音読カードを継続的に実施する。	取組指標 ①一週間に全員のノート点検 ②一週間に国・算の活動を朝の時間に各1回の実施		評価 B	次年度における改善事項 ・板書やノートの内容を写真に撮り、校内研修・授業実践での共有資料として残していく。 ・習熟の差がみられた単元においては難易度を段階的に設定したミニテストを作成する。 ・家庭学習で使える弱点補強プリントを少しずつ作成していく。

(2)知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況	具体的目標(目指す子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よさ 自信を持って自分の考えを伝えることができている。相手に分かりやすく伝える手段や方法を身に付けてきている。	目的に応じて、根拠や理由を明らかにしながら、自分の考えを豊かに表現することができる。	「自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりするのは得意」と答える児童の割合が80%以上	・ペア学習・班学習の機会を増やす。 ・文章に多く触れる機会を設ける。 ・ホワイトボードを使い班ごとの発表を工夫する。	①中学年は概ね指標を達成し、高学年の算数・理科では一週間に3回以上を目標に取り組んだ。 ②全担任が1回、課題に応じた研究授業を行った。	中・高学年アンケートでは、成果指標80%以上の85%となった。 低学年は、1日1回以上の発表が達成できた。
課題 自分の考えや思いを筋道立てて文章で表現することに課題がある。	具体的方策(教員の取組) ①学習活動の中で自分の考えを筋道立てて文章に書く・表現する機会を意図的に設ける。 ②学級の課題に応じた研究授業を実施する。	取組指標 ①自分の考えを筋道立てて発表する機会を一週間に1回以上 ②研究授業を1人1回以上		評価 A	次年度における改善事項 ・友達の見聞を聴くこと、自分と相手との考えの相違に気づくこと、考えの根拠を説明したり質問したりすることができるための取組を、学年の発達段階に合わせて学校全体で見直す。 ・書くことで自分の考えが深まったり明確になっていくようなワークシートを工夫したり、付箋紙を使って根拠を明らかにして意見を述べる機会をつくる。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況	具体的目標(目指す子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よさ 落ち着いて学習に取り組み、学習や生活のきまりを守って学校生活を送ることができている。	課題や自主学習に積極的に取り組み、学ぶ楽しさや喜びを感じる事ができ、自信をもつことができる。	「①分からないときあきらめないで考える」や「②疑問に思うことを自分で調べている」と答える児童の割合を80%以上	・学習課題の提示を明確にする。 ・家庭学習が提出できていない児童の理由を探り、臨時の家庭訪問で家庭との連携を図る。	①自己評価シートを活用したが、続けることの意識が強すぎ後半にはマンネリ化が見られた。 ②家庭への伝え方が一方的になることが多かった。	3学期アンケートで高学年が①は75%、②は65%となり、目標の80%以上には届かなかった。
課題 難しいことでも最後まであきらめない気持ちや、疑問に思ったことについて追求しようとする意欲が乏しい。	具体的方策(教員の取組) ①児童の主体的な体験や活動を授業に多く取り入れる。 ②学校で出す家庭学習を工夫し、学校・学級便りや家庭学習の手引で家庭学習の習慣化を図る。	取組指標 ①一週間の授業の中で全ての児童の意欲的な活動を賞賛する ②家庭学習の様子を毎月の便りで広報		評価 C	次年度における改善事項 ・取組を強化する期間を設定してメリハリを付ける。 ・児童が自分に自信が持てるよう、スモールステップで自己評価できる活動等を考える。 ・教師自らが小さな疑問でも追究し解決していく姿を児童に示すことを意識する。 ・保護者からいただくコメントをさらに児童のやる気や自主性につなげていく方策を練る。

平成27年度 学力向上ロードマップ

